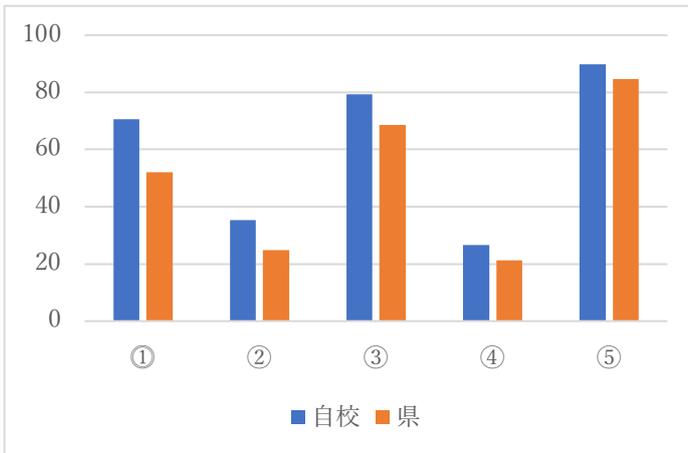


◆生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

【 数値が特に高かった項目 】

調 査 の 項 目	
①	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
②	学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていたか。
③	友達の話や意見を最後まで聞くことができているか。
④	今住んでいる地域の行事に参加しているか。
⑤	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

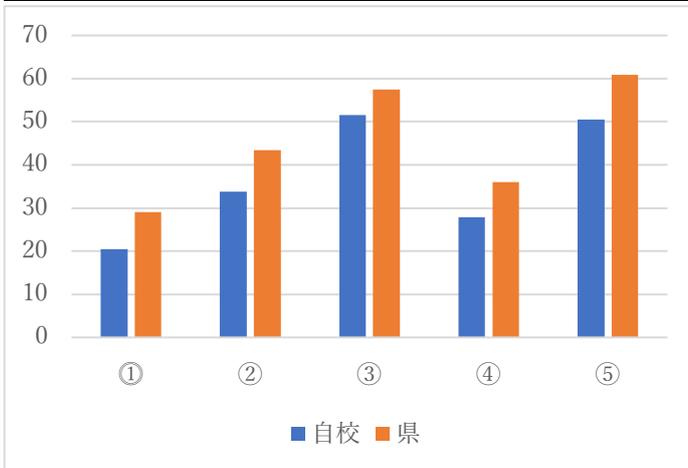


分析と取り組み

①～⑤の項目で「当てはまる」と答えた生徒が県平均を上回っている。①については、ICTを活用した授業や、主体的で深い学びにつながる授業の工夫が行われているためと考えられる。③については、スキルタイムで取り組んでいるコミュニケーション能力を高めるための活動による成果と思われる。

【 数値が特に低かった項目 】

調 査 の 項 目	
①	学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか。
②	土曜日や日曜日などの休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強するか。
③	話し合う活動では、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかり伝えているか。
④	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。
⑤	自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出す活動を行っていたか



分析と取り組み

①～⑤の項目においては、県平均を大きく下回っている。①②の項目からは、家庭での学習習慣が短い時間で終わる生徒が多いことがわかる。③④⑤の項目からは、伝えることや新しいものを生み出すことに難しさを感じている生徒が多いことがわかる。以上のことふまえ、現在行っている曜日ごとの課題や授業におけるICT機器の活用をさらに進めること、スキルタイムで身につけたことを学習の中で使う機会を増やすことを通し、自分だけでなく他者とも学びを深められるよう支援していきたい。

◆令和3年度全国学力・学習状況調査 《 中3年生 国語科 》

全体の概要

全体の正答率は全国平均を下回る結果となった。特に、「書く」の領域では無回答率が高く、自分の考えを書くことを苦手とする傾向が強いことが分かった。しかし、「話す・聞く」の領域では正答率が高く、無回答率はほぼ0%であった。

観点	知識・技能	思考・判断・表現
分析結果・自校の課題	<p>全体の正答率は、全国平均を下回る結果となったものの、「話す・聞く」の領域においては正答率が8割を超えており、高い結果となった。これは、授業での話し合い活動を通して、司会の役割や質問の意図が理解できているためであると考えられる。一方で、小説の中で「呼吸をのみこんだ」「随時」といった語句の意味を選択する問題では、全国平均を大きく下回った。この結果から、語彙力が乏しく、文脈の中で語句の意味を捉えることが苦手である生徒が多いのではないかと考えられる。</p>	<p>全体の正答率は、全国平均を下回る結果となった。特に、意見文の下書きを直す問題や文章の内容を読み取り自分の考えを書く問題では、全国平均を大きく下回った。この結果から、主語・述語を意識して文章を書く機会が少ないこと、文の型が十分に身につけていないことが考えられる。また、物語教材において、登場人物の心情などについて深く考え、自分の考えをもつ経験も少ないのではないかと考えられる。一方、条件にしたがって文章を書く問題では、全国平均を上回る結果となった。</p>



分析結果・自校の課題

「知識・技能」の観点については、授業の中で言葉に着目し、生徒の語彙力の拡充をめざす。話し合い活動については、これからも積極的に授業に取り入れ、話し合いのスキルを向上させていきたい。

「思考・判断・表現」の観点については、文章を書く活動を授業により組み込む。その際にはモデル文を示し、まずは文の型を定着させ、そこから自分の考えを書くことにつなげていきたい。

改善に向けて、タブレット学習も随時取り入れ、生徒の意欲をかきたてる一助としたい。

◆令和3年度全国学力・学習状況調査 《 中3年生 数学科 》

全体の概要

全体の正答率は全国平均を大きく下回る結果となった。特に、「数と式」の領域では無回答率が高く、複数の資料からデータを読み取ることが苦手な生徒が多いことが分かった。しかし、「資料の活用」の領域では、正答率が全国平均とほぼ同じであった。

観点	知識・技能	思考・判断・表現
分析結果・自校の課題	<p>全体の正答率は、全国平均を大きく下回る結果となったものの、「資料の活用」の領域においては正答率がほぼ同等であった。令和2年12月の県学習状況調査の結果と比べても、この領域は向上がみられた。これは、2年時での「資料の活用」の領域の授業において、毎回導入として1年時の授業の復習を取り入れたため、基礎・基本が定着したからだと考えられる。一方で、「数と式」の平均正答率が全国平均を大きく下回っており、基礎的な計算技能につまずきがある生徒が多いと考えられる。</p>	<p>全体の正答率は、全国平均を下回る結果となった。特に、「数と式」の領域では、無回答率がとても高かった。これは、問題文の中に、文章、図、表、数式と複数の情報があるときに、どこをどう読み取ればよいかの手順が身につけていないことが考えられる。また、「関数」の領域でも、1つのグラフから値を導く問題の正答率は、全国平均とほぼ変わらないが、なぜそうなるかを考え、自分の考えを文章に表現する問題については、正答率が低く、無回答率も高い。</p>



分析結果・自校の課題

「知識・技能」の観点については、10分間の朝ドリルと、15分程度の放課後学習会を実施し、基礎・基本の定着と、生徒自身が「問題が解けた」という充実感を味わえるようにする。また、タブレットのドリル機能を週1回活用していく。授業の中では、学び合う活動を取り入れ、生徒同士が理解を深め合う場面を多く設定したい。

「思考・判断・表現」の観点については、毎単元の最後にレポート作成を行い、その単元で学んだことを自分の言葉や式で表現させる。自分でまとめさせることで、文章を書いたり読んだりする力を身に付けさせるとともに、ポイントを抑えて問題を解決する力も同時に身につけさせたい。